

prisoners  
\*  
confession

For adult only

michi

## Contents

prisoners	3
confession	54



当同人誌をお手にとっていただき、誠にありがとうございました。  
お手に取って読みたいと思っていただき、ありがとうございます。

The unofficial R-18 dtms crossover fanfiction novel  
**prisoners**

---

先月起訴に持ち込んだ殺人事件の報告書を仕上げた時には、22時半を過ぎていた。

同僚達はとつぐに帰宅して、デスクの端ではお節介な部下のリーが置いてつたフィッシュ・アンド・チップ

「…食わないって言つた」

取り上げた包みをゴミ箱に放つて、ジヤケットを羽織った。

署を出ると、憂鬱な6月の霧雨が舞っていた。

この田舎町、ウォーターブロックに腰を据えて3年。どれだけ凄惨な事件を解決しても、ここに来る羽目になった経緯の事件が解決してもなお、憂鬱が晴れる日

はない。

車に乗り込み、海岸沿いのメインストリートを家へと向かう。ほんの15分もかかるない距離がやけに遠く思えるのは、先週起きた強姦事件の捜査が一向に進展を

見せないせいだろう。

疲れた視界の左の端、暗い海の波間に何かが見えた気がして、二度見していた。

目をこらすとそれは人の上半身で、薄霧に烟る人影は浜に背を向けて深みへと向かっていく。

一  
おい……！

車を停め、慌てて飛び出して浜へと走る。

砂に足を取られるうちに人影は深みへ向かい、既に肩まで波に浸かっていた。

一  
三  
甚  
弁  
し  
る  
！

海に入り、波を搔いて人影を目指す。波に押し戻され  
て思うように進めず、目指す頭は今や時折波に飲まれ  
ては浮き沈みしていた。

「クソツ！！」

無我夢中でそれに辿り着き、掴んだ腕や脇を死にものぐるいで引っ張つた。俺に力なく抱えられるだけのそれが男か女なのかも、生死の確認もそこそこに、必死で陸に引きずり上げた。